

ちば里山新聞

（第67号）
 編集発行 NPO法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 ☎ 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 （ワークホーム里山の仲間たち）

第2回ちば里山カレッジが市川市で開催されました！

令和5年度の第2回ちば里山カレッジは、12月17日に「拡げよう・つなげよう里山活動」をテーマに、市川市男女共同参画センター研修ホールで開催されました。午前中は、NPO法人よこはま里山研究所松村正治理事長から「後継者不足の里山ボランティア活動に新しい風を」をテーマとした基調講演がありました。

伝統的に行われてきた里山活動をヤマ仕事、ノラ仕事と結び付けて、里山の恵みと暮らしを解説したうえで、里山保全活動に対する視点を整理し、よこはま里山研究所の里山保全に関するスタンスや活動の紹介がありました。具体的



松村正治氏の基調講演



里やまサポーターズ葛原まりさん

には、昔の里山での暮らしに基づいた「カセギとシゴト」を、現在関わっている里山活動に移し替えて進めているとの内容でした。そして、学生、20代～30代の社会人、子育て世代などが参加できるシステムとして「よこはま里山レンジャーズ」、森づくりのリーダーを育てる「モリダス」、ポータルサイトを制作・運営する「里山コネクト」など多彩な具現化された活動として紹介いただきました。

「里山活動に新しい風を」と銘打つだけあって、場面に応じて解決できるプロジェクトを作り進めていることがとてもよくわかる貴重な講演でした。

午後は、「ポスターセッション」として、次世代の参加者が増えている団体、新しい取り組みをしている団体など4団体のポスターを、参加者が4つのグループに分かれて順次廻りながら、発表を聞き質疑を行いました。発表者と参加者の距離が近く、議論が進んだ印象でした。

続いて、この4つのグループごとにワーキングを行い、ポスター発表をヒントに参加者の活動団体で起きている課題の解決に向けて意見を出し合いました。

最後に全体で総合意見交換があり、松村氏から「里山で行っている整備活動は整備が目的になっていないか？開拓精神だけではないだろう。これまで右肩上がりの成長でやってきたが、違う価値観で作っていく必要はないのか？今までの里山活動の在り方



さとやま企画真鍋弥生さん

を少しずつ改め、力を抜いていくのも大事だ。一番足りていないのがボランティア同士の対話ではないのか。対話を積み重ねることでコミュニティが作られていく。」と、示唆に富んだコメントがありました。

今までとはちょっと異なる趣向の里山カレッジであり、しかも盛りだくさんの内容で参加者には戸惑った面もあったかと思いますが、それぞれの里山活動への関わり方に何らかのインパクトを与えた一日でありました。

将来も見据えた里山活動の関わり方への提起になる里山カレッジを目指して、これからも取り組んでいく予定です。



ポスターセッションを終えて

「里山資源はビジネスになるのか」 第3回里山カレッジ

第3回の里山カレッジは午前中、千葉県緑化推進拠点施設研修室で講義、午後からはフィールドで行いました。受講生は見覚えのある方、まったく初めての方と見受けられたので、里山カレッジへの参加について「初めてあるいは2回目の方」と挙手を求めると12人の手が挙がりました。続いて里山カレッジのタイトルの「里山資源をビジネス」のタイトルに魅かれた方を聞いてみたら10人の手が挙がり、このタイトルはかなり関心が高かったということがわかりました。

いすみ薪ネットワーク代表の伊藤幹雄氏の講義は「薪ストーブの利用者はどれくらいいると思いますか?」と疑問型で始まりました。いすみ市で薪ストーブは160から200台程度設置され、いすみ薪ネットワークのメンバーは100人、設置している人の半数以上がいすみ薪ネットワークに参加しているとのことでした。薪の消費量は1シーズンあたり中型ストーブでは約6m³、軽トラの荷台に積載すると7台分です。ストーブが100台稼働するとして年間の消費量は600m³、いすみ市の天然林(広葉樹林)の蓄積26万m³の半分を薪用材として利用したとしても、計算上200年にかかることになるそうです。



いすみ薪ネットワーク伊藤幹雄講師

さて、この薪ネットワークの特徴は外部への薪販売は行わず、会員間での売買のみにしている点です。会員間での売買の特徴は軽トラ一台分を15,000円で買い取り、10%が会に寄付される仕組みになっています。

通常の活動は通年薪づくりが行われ、毎回20~30人が集います。原木の収集は10月から4月までの秋から冬にかけて行っています。造園業者や土地整理組合、工務店からの引き取りの依頼に対応することもしばしばあり、有償、無償と様々な対応に迫られるとのことでした。

新築家屋に薪ストーブを導入する場合にかかる費用は本体30万円、煙突30万円、取付工事30万円とざ



山小屋の前で説明する岡部正史氏

っと見積もっても100万円ちかく、そのうえ壁、煙突の取り付けなどの改造費がさらに掛ることになります。いすみ市では薪ストーブを導入する際の支援として、令和2年度から木質バイオマス活用事業補助金の助成が始まりました。いすみ市内17,000世帯のうち薪ストーブが200台として、約1%がユーザーということになります。「安い買い物ではないが、ネットワークに集う仲間同士が技術・能力を高め合うのもビジネスの基本ではないか」と伊藤講師のビジネス感が垣間みられました。さらに、薪ビジネスが成り立つには、どの程度薪利用者が必要なのか?疑問は尽きませんでした。

伊藤氏の講義の後、県内で薪を利用する3人から薪利用についての紹介がありました。八千代市の三栗谷氏からは道の駅の隣で薪販売を始め、軌道に乗っていること、松戸市の藤田氏からは薪を乾燥させるためのスリス積みや、伐倒したスギをもとにしたベンチの製作記録を、佐倉市の南條氏からはイベントで薪を持ち込んだところ、若い世代を中心に薪を購入して持ち帰る不思議な現象が起こっている事例でした。

午後から袖ケ浦市林地区に移動し、岡部氏の薪製作の現場を見学しました。チェーンソーを使った丸太切り、油圧式の薪割り機、廃物を利用して構築した乾燥させるためのワゴンなどもあって、薪製作がシステムティックに行われていることを実体験しました。

今回のカレッジ受講生の中で里山活動を行っているのはどの程度なのか?アンケートから28人中20人が里山活動に参加していることが明らかとなりました。県内の里山団体に加入する若い世代の人が増え、その人たちがこのようなカレッジに関心を持っていることは、今後の里山活動の展開への新たな風を予感させるものでした。



薪割り機と背後は薪保管コンテナ

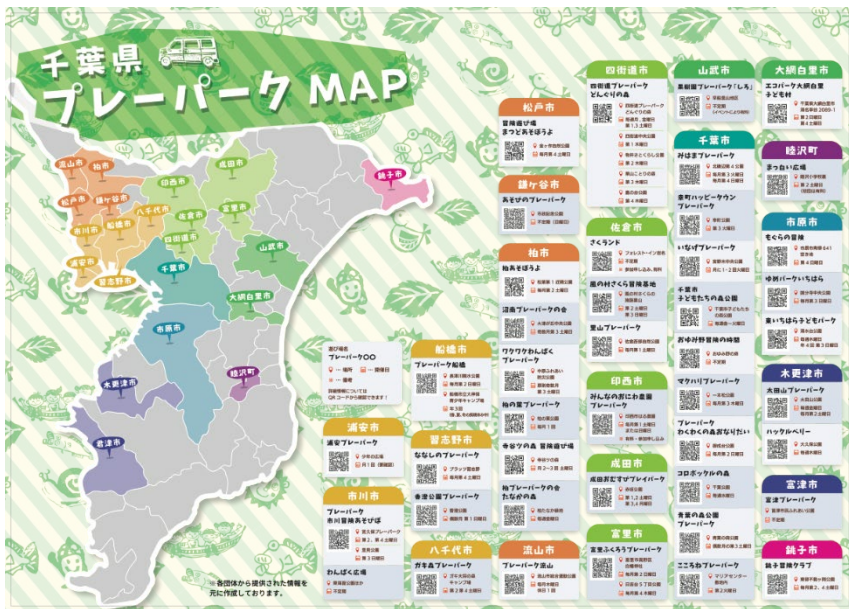
千葉県冒険遊び場プレーパーク(ちばぼう)で里山活用

「あなたは子どもの頃にどんな遊びをしていましたか？」

千葉県冒険遊び場ネットワークの講座で定番の「子どもの頃の絵日記ワーク」。子どもの頃に遊んだ情景を絵で描きます。講座参加者は家の近くの空き地や道路、裏山そして小学校の校庭、楽しかったこと、ちょっとハラハラしたことなどを、一人一人個性的な絵を交えて描いてくれます。なんでもない日常の一コマが思い出に残る遊びであり、子ども達だけで過ごした自由な時間こそ、私たちの心の奥底に残る景色なのかも知れません。その時の土の香り、一緒に食べた木の実の味、帰り道に見上げた夕やけの色、遅くなって怒られた母の声などなど。五感で感じた全てが目には浮かんできます。

『遊ぶことは生きること』、遊びは「何か」のためにやるのではなく、子ども自身の内的欲求から生まれるものです。その源は見たい、知りたい、感じたいという子どもの好奇心、里山の日々変化する自然こそ、子ども達の好奇心をくすぐり、遊びへと誘い出します。

そこでの遊びは、自然に触れるだけでなく、自分の気持ちに気づき、人と触れ合い、さまざまな出会いが子どもの心と体を育てていきます。



いきのなかで ばんばんあそべる ぼうけんあそびば ーんとぶやそう!

みんなでプレーパークの写真をたくさんシェアしよう!
プレーパークの楽しさをみんなで伝えよう! 発信しよう!

参加方法: SNS にハッシュタグ #playweekchiba をつけて投稿する

期間: 3月16日(土)~31日(日)

お近くのプレーパークの所在は裏面 MAP を参照ください。開催日は各プレーパークによって異なります。開催日程を確認の上、プレーパークにも遊びに来てね!



自分の責任で自由に遊ぶ
竹がと弁当自分もち

PLAYWEEKCHIBA2024は千葉県内のプレーパーク活動をPRするためのイベントです。
みんなでプレーパークでの素敵な写真をSNSにハッシュタグ #playweekchiba をつけて投稿してプレーパークの楽しさをシェアしよう!

プレーパークは
子どもたちが主体的・自発的に遊ぶ
「子どもたちの遊び場」です。
いつでもだれでも遊びに来ることができます。
子どもたちが自分のペースで
挑戦しながら遊べることを大切にしています。

子どもたちにより幸せな子ども時代を

【主催】(一社)千葉県冒険遊び場ネットワーク (ChibaBo!)

〒264-0037 千葉県千葉市若葉区環町 54-1-4

千葉県子どもたちの森公園

TEL: 043-254-2328

メール: chibabo.net@gmail.com

Facebook: https://www.facebook.com/chibabo.net

ホームページ: https://playpark-chiba.org/



千葉県冒険遊び場ネットワークは、「子ども達により豊かな子ども時代を」をモットーに、千葉県の豊かな自然の中での遊び場を増やす取り組みをしています。

開催場所は、公園や民有地など様々ですが、里山を整備しながら遊び場を開催している地域も、千葉、富里、松戸、山武、四街道と増えてきました。ぜひ、近くの遊び場に参加してみてください!

春休みには県内のプレーパークで一斉『PLAYWEEK CHIBA』も開催します。ぜひ、ご参加ください!!

一般社団法人千葉県冒険遊び場ネットワーク 代表理事 古川美之

富津市民ふれあい公園で芽かき体験をしました!

3月6日富津市民ふれあい公園のNPO 法人森林デザイン研究所の会員が皆伐した広葉樹の森ゾーンにて、参加者、スタッフ等の計20名程で芽かき体験を行いました。県内で広葉樹を皆伐する森はほとんどないため、伐採後に萌芽更新を進めている森もありません。したがって、更新に必要な芽かき作業が行われることも無いため、この芽かき作業は貴重な体験となりました。



伐採から2年程経って、かなりボサボサで萌芽枝も多数発生した状態でした。この中から、成長のよいもの、全体のバランスなどを考えながら3~5本残す作業は大変でした。50株ほど行い、24株については萌芽枝の元の太さと長さを計測し、樹種と萌芽枝の発生位置を併せて記録しました。来年、再来年と萌芽枝の成長を経過観察することで、今回行った芽かきの方法について、今後もみんなで考えていく予定です。

里山じまん ⑭

NPO さとやま

活動の拠点である千葉県流山市市野谷の森は50haほどの森でした。しかし、TX開通による周辺開発のため、ほぼ全部が伐採される計画がもちあがりました。そこで地元のいくつかの自然保護団体が保全運動を開始、



守ろう里山プロジェクト

その結果中心部は将来県立公園として、

東西は市の近隣公園として半分の約25haが残ることとなりました。

NPOさとやまはその保全活動を引き継ぐかたちで平成14年にNPO法人として発足、当時からこの森を拠点に、季節に応じたテーマで自然観察会などの活動を続けています(現在、会員は

100名強)。そして5年前から、森の維持管理事業を市(及び県)から委託され、その際に新たに維持管理メンバーも公募、それまでの活動メンバーを含めて現在は20数名で維持管理活動を行っています。

ホームページ : <https://www.nposatoyama.com>

NPOさとやま 理事長 岡田 啓治



今年度、最終版の発行を周りから急がされ◆原稿の集まりが良かったことが功を奏し、なんとか発行に漕ぎ付けることが出来ました◆時の流れは早く東日本大震災より13年も経ちましたが今も2520人行方不明者がいるとゆう◆自分は震災より未だ東北を訪れたことがありません◆今年こそは訪れたいものです(YA)



昆虫観察会

里山の風にゆられて ⑳



ショウブ<菖蒲>ショウブ科ショウブ属

湖沼、河などに生える多年草の草本で、単子葉植物の一種で全体に芳香がある。花はめだたないが端午の節句に茎葉をお風呂に入れてショウブ湯として使う習わしがある。ショウブ湯は健康で丈夫になると言われている。又、武士道の「勝負」にもかけられる。

写真・文 赤松義雄 R6.3.11 袖ヶ浦市代宿

入会申し込み・問い合わせ先

特定非営利活動法人 ちば里山センター

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号580-148 ☎0438-62-8895 FAX0438-62-8896(平日9:00~17:00)

E-mail info@chiba-satoyama.net ホームページ <http://chiba-satoyama.net/>